

第 420 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 8 年 4 月 7 日 (火) 11:00～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取講評 [番組名] K-MIX Slow-City
[放送日時] 令和 8 年 4 月 3 日 (金)
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 委員 服部乃利子
委員 加藤裕治 委員 小野晃司
委員 土屋維子
(5 委員 / 6 委員)
- [会社] 代表取締役社長 井熊正浩
取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部副部長 原壮俊
編成制作部シニアマネージャー 鈴木秀明
5. 事務局報告 ○ K-MIX の 2026 年度の営業状況の見通し
○ K-MIX の 2026 年 4 月の改編の報告
6. 番組審議
[番組名] K-MIX Slow-City
[放送日時] 令和 8 年 4 月 3 日 (金)
[出演者] 牧村一穂
[番組内容] 入社 5 年目を迎えるパーソナリティの牧村一穂が、さわやかで心地よい雰囲気でお届けする 2 時間 20 分の生放送。仕事・家事に追われるビジネスパーソンに向けて、トレンドや音楽などをゆったりお届けします。防災士・看護師の資格を持ち、アイドル好きの牧村ならではのコーナーも放送。 そういう約 3 時間。

[聴取・合評での主な意見]

土屋委員

番組タイトルの「Slow-City」通りに番組の雰囲気丁寧さを感じた。全体的にも、トークのテンポにも違和感はなく、それぞれのコーナーもパーソナリティの牧村さんの得意を活かして作られていて好感が持てる。番組としては最後のコーナーになる「トレンドプレスルーム」はもう少し、内容や時間に様々な余地を感じる。

小野委員

番組タイトルにある「Slow」は「ゆっくり」というよりも、「ローカル（地産地消）」の意味合いを感じた。その観点から番組を眺めると、牧村さんが浜松に来てからの5年の歳月を経た個性も十分に出せるフィールドであり、ローカルゆえの肩の力が抜けた聴きやすさや県民どなたが聴いても聴取可能な番組になっていて、大変素晴らしい。金曜日のこの時間で、少しエッジを効かせながら、ガツガツ切り込んでゆく所がないスタンスに好感が持てる。

加藤委員

パーソナリティの牧村さんのモードにどこまでついて行けるかどうかが、1つのポイントとなる番組。牧村さんのファンがこの時間に集って楽しむ内容は有りだと思ふ。コーナーや番組構成にも違和感はなく、金曜昼の時間のテンポ感も良いのではないだろうか。今後は、牧村さんの元気なキャラクターを残しつつ、もう少し、トークに落ち着きを取り込んでみると「緩急」がついて、番組の魅力が増すと思う。牧村さんが「元気キャラ」のうちに、もうワンステージ上を目指す頃合いだと思われる。番組の今後に注目したい。

服部委員

パーソナリティの牧村さんの耳に心地よく残る声は、安定感があり、この番組ではトークのテンポをゆっくりにするように意識していると思われて、その言葉遣いから、飾らない親近感が伝わってくる。番組全体を通して、聴取者に寄り添う丁寧さを感じ取ることが出来た。とても良い番組である。

木宮委員長

番組の流れやトークのテンポは気にならず、聴きやすい。番組内で相手がいてトークを展開する時には、パーソナリティの牧村さんの強みである素早いトークの切込みが良く出ている。一方で、一人で何かを伝える時のトークは、やや原稿を読んでいる感じが出るので、今後意識して変えて行くと良いと思う。防災を話題にする「エマージェンシーセンター」の出題に対する答えの三択は、監修等を付けて、誤解のないように十分な注意が必要である。5年目にして定着した牧村さんの個性をこの先どの方向に進ませるのかを考える時期も来ていると思われる。

会社サイド

牧村一穂は入社5年の間で、確実に推しで聴いてくれる年代が出来てきている。今年度は、その年代層を10歳程度下に広げて、その世代に共感を得るようなパーソナリティになってもらいたいと考えている。番組開始直後は、この番組のコンセプトが牧村本人に合うのかというご意見もいただいていたが、番組内容と本人の個性は、1年で近づいていると感じている。牧村の個性と番組コンセプトの融合がうまく行くようにしたい。

以上

次回開催日 令和8年5月12日(火) 11:00～13:00を予定

番組審議会委員長
木 宮 敬 信